

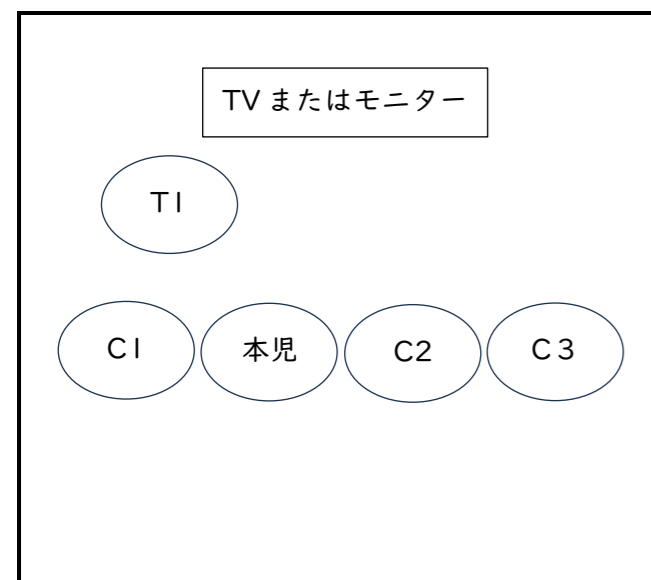
授業づくりシート

領域名 自立活動

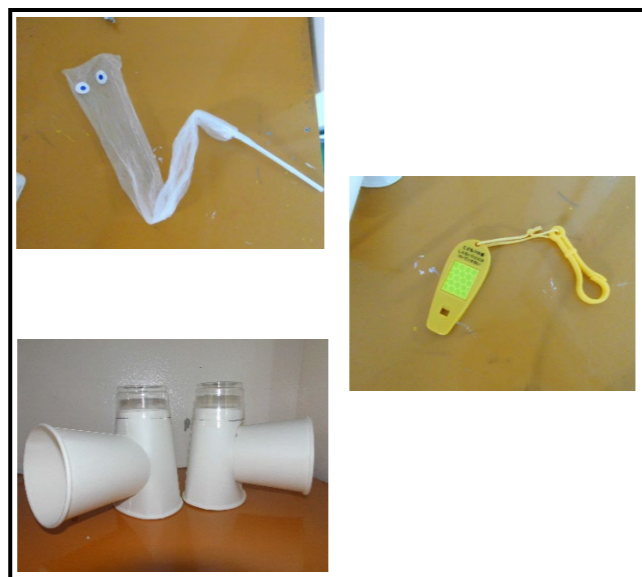
4 学年

| | | |
|--------------------|---|--|
| テーマ | 「声を出すことを楽しもう」 | |
| 事例児の実態 | <ul style="list-style-type: none"> ・走ったり跳んだりと身体を動かすことが好きで楽しむことができる。(健康の保持) ・泣き声や騒がしい空間が苦手で、泣いたり服を噛んで怒ったりしてパニック状態になる。(心理的な安定) ・動作模倣が得意で、ダンスや体操、教師の動きを見て真似ることができる。(環境の把握) ・笑い声や意味のない音など自分のタイミングで声を出すことができる。 (コミュニケーション) ・相手に伝えたい意欲が低く、自分からクレーン動作や動作サインをすることが少ない。 (コミュニケーション) | |
| 事例児の個別目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・声を出して言える音を増やすことができる。(コミュニケーション) ・声に出して伝えようとするすることができる。(コミュニケーション) | |
| 活動内容と具体的な手立て | | |
| 活動内容 | ねらい | 具体的な手立て |
| 息を吹いたり声を出したりしよう | <ul style="list-style-type: none"> ・頬を膨らませて息を吹き出す。 ・唇に力を入れて空気を頬に溜めたり、少しずつ空気を出したりする。 ・声を出すことに慣れる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・笛を使って息を出す練習をする。 ・ストローに傘袋を付けた教材で、思いっきり息を吹いたり唇に力を入れたりする練習をする。 ・声の振動でビーズが動く教材で、声を出すことに慣れる。 |
| マイクで話そう歌ったり踊ったりしよう | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の声を聴く。 ・マイクを通して声が出ることを楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・マイクとラジカセを用意する。 ・実態に合わせて、呼名や単語を教師と一緒に一音ずつ言ったり、一人で言ったりする練習を行う。 ・歌を通して楽しみながら息や声が出るようにする。 |

○場の配置



○教材教具等



○展開

| 時配 | 活動内容 | 教師の支援等 |
|-------|--|--|
| 9:50 | ○初めの挨拶 ・教師の言葉かけや動作に合わせて挨拶をする。 | ・模倣ができるよう、一つ一つの動きを確認しながら行う。 |
| 9:52 | ○顔の体操 ・映像を見ながら表情を真似する。 ○息を吹いたり声を出したりしよう ・息を吹いて笛を鳴らしたり、ろうそくの火を消したりする。 ・教材を使って声を出すことを楽しむ。 ○マイクで話そう ・名前を言う。 ・返事をする。 ・TVの画面に出てくるイラストや文字を見て言う。 ○歌ったり踊ったりしよう ・曲中の歌えそうな部分で声を出したり、歌ったりする。 ・簡単な踊りを楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教師が顔の体操を行ったり、児童の顔に手を添えたりして、手本を行い、体操ができるようにする。 ・映像の速度を落とし、丁寧に模倣ができるようにする。 ・笛を鳴らすときは、息を思いっきり出す方法や、少しずつ切っ出す方法を行い、息の使い方に違いがあることに気付けるようにする。 ・声の震えてビーズが動くことを伝えながら、声を大きく出せるようにする。 ・ラジカセとマイクを使用して、自分の声を音として聞くことができるようにする。 ・自分の氏名を理解できるよう、教師と一緒に呼名と返事の練習をする。 ・教師の口形を模倣したり、一人で発声したりして単語を言う練習をする。 ・児童の好きな童謡を流す。 ・歌えそうな児童にはマイクを持たせて、曲の1番担当、2番担当などと決めてある程度の長さ、声を出すようにする。 |
| 10:09 | ○終わりの挨拶 ・教師の言葉かけや動作に合わせて挨拶をする。 | ・一斉に号令をかけた後、「ありがとうございました」の一部分や一音を言う練習をする。 |
| 10:10 | | |

○成果と課題

○教材を数種類用意することで、飽きずに楽しみながら活動に取り組むことができた。

○教材を使って声を出すことで、日常生活でも相手に伝わる声量を出す児童が増えた。

△息を吹き続けることや口形模倣はできるようになったが、そこから言葉や音にしていく活動が必要であると考ええる。舌を使った活動も取り入れていく必要があると考える。